

## 北栄小学校の教育課題～令和6年度（2024年度）の重点～

家庭と連携して子供の「責任」の意識を育むとともに、意思決定して行動する姿勢を育てる  
《キーワード》

試み ・ 挑戦 ・ 達成感

「意思決定」とは、特定の目標を達成するために、ある状況において複数の代替案から最善の解を求めようとする行為。自分の役割や仕事を「自分事」として捉える意識や自分で物事を決めようとする態度のこと。

### 1 教育課題

本校では、学力や体力、生活習慣、いじめ、不登校などに関する課題があり、これまで効果が得られると思われる指導や支援を実施してきたが、改善の兆しは対症療法的な手段によるものよりも、むしろ人間性の向上に資するものによるとの見解に至った。具体的には「何事にも熱心に取り組む姿勢」の育成や「支援的風土」の醸成である。特に「何事にも熱心に取り組む姿勢」は、日々の生活や学習などで、自分ができるようになったこと、自信をもてるようになったこと、それを踏まえて次にやってみたいこと（やるべきこと）を考え、実際に行動することを一体的に繰り返すことによって培われるものである。こうした実践を充実させるためには、次の(1)～(3)のような課題の解決が必要である。

- (1) 家庭と連携しながら日常的に自分がやらなければならないことや、向き合わなければならない課題に対して「責任」(P5 下段図参照)の意識をもたせることが必要である。

- 不登校傾向にある児童：複数名
- 学校評価（後期）（児童「そう思う」「どちらかというと思う」割合の平均 86.4%）
  - ▶ 「早寝早起きをし、朝ごはんを食べて登校している」 82.8% ↓
  - ▶ 「ゲーム、スマホなどはルールを決めて守っている」 76.8% ↓
  - ▶ 「進んで体を動かして、運動したり遊んだりしている」 85.0% ↓

- (2) 課題解決や目標達成に向けて主体的に取り組む経験を積み、自信をもてるようにすることが必要である。

- 学校評価（後期）（児童「そう思う」「どちらかというと思う」割合の平均 86.4%）
  - ▶ 「もっと『勉強してみたい』と思う」 75.1% ↓
- 全国学力学習状況調査（質問紙）
  - ▶ 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」
    - ・ 当てはまる 17.9% ↓（全道：30.1%、全国：30.5%）
    - ・ どちらかといえば、当てはまる 46.4% ↓（全道：49.3%、全国：48.3%）

- (3) 自分（たち）の願いや実力を踏まえて目標を設定させ、その達成に向けて他者と良好な関係を築かせながら意志決定を促し、行動に導くことが必要である。

- 全国学力学習状況調査（質問紙）
  - ▶ 「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」
    - ・ 当てはまる 14.3% ↓（全道：30.4%、全国：30.6%）
    - ・ どちらかといえば、当てはまる 46.4%（全道：45.1%、全国：45.1%）
  - ▶ 「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」
    - ・ 当てはまる 16.1% ↓（全道：27.4%、全国：28.3%）
    - ・ どちらかといえば、当てはまる 41.1% ↓（全道：46.4%、全国：46.1%）
- 学校評価（後期）（児童「そう思う」「どちらかというと思う」割合の平均 86.4%）
  - ▶ 「授業で自分の考えや思ったことを周りの人にきちんと伝えられる」 74.8% ↓

## 2 理念・学校教育目標との関連

教育目標の達成を目指すことは、教育理念の具現化につながるものであり、日々の教育実践では、人との関りの中で自己を高めていくことの大切さに気付かせながら子供の自立を促す指導や支援が重要となる。

### 【教育理念】

次代の担い手として、人間尊重の精神を基盤に、心豊かにたくましく生きる児童の育成を図るための学校教育を創造する。

### 【学校教育目標】

#### 「家庭や地域と連携・協働して子どもたちを育てる」

- 自ら進んで学ぶ子ども [子どもの「やってみよう！」を引き出す]
- 互いを認め合い、自分と相手を大事にする子ども [人それぞれの特性を認め、尊重する態度を育成する]
- 健康や安全に気を付ける子ども [健康や安全に対する関心を高め、体を動かす心地よさを実感させる]

「何事にも熱心に取り組む姿勢」は、「自ら進んで学ぶ子ども」の育成につながるものであり、生涯にわたって主体的に学び続けるという生涯学習の基礎を培うものである。また、「支援的風土」は、「心理的安全性」に基づく「安心感のある学校」の実現につながるものであり、自他を認め合い尊重する集団の育成や心身の健康の維持増進を促し、すべての教育活動を支えるものである。

教育課題を解決し、教育目標の達成・理念の具現化を図るためには、「何事にも熱心に取り組む姿勢」を育むことや、「支援的風土」を醸成していくことが不可欠である。

「安心感のある学校」とは、良好な人間関係を築いている、やる気に満ちている、間違いや失敗があっても受け止めてくれる、周囲への気遣いがある、など。

## 3 教育課題の背景にあるもの

### (1) 「自己中心主義」の影響

情緒不安定、集団への不適応、暴力・暴言、いじめなどの原因の一つに子供の「自己中心主義」があると考えられ、それは「何事にも熱心に取り組む姿勢」や「支援的風土」の実現を妨げる要因となる。

「自己中心主義」的な子供（たち）は、自分の価値観が最優先で物事が動いていると思いつ込んでいるため、例えば次のような行動等を起こすことがある。

#### 「自己中心主義」に伴う行動等

- 学校生活への不適応
- 一斉授業に参加できない、集団行動がとれない
- 大人の指示や指導を受け入れない
- 自尊感情や自己肯定感の低下
- 泣く、暴れるなどの行為
- 自分の非を認めず言い訳を繰り返す
- 思いどおりにならない苛立ちによるいじめ
- 他者を陥れるいじめ
- 執拗なからかいやチャカシ
- わがままや逃避による引きこもり など

「自己中心主義」とは、他人のことを気にかけず、自分のことしか考えてないこと。

### (2) 「自己中心主義」からの脱却

子供が「自己中心主義」から脱却するためには、様々な機会を通じて自分がやらなければならないことや、向き合わなければならない課題に対して一つ一つ取り組むという意味での「責任」の意識を育てる指導が必要である。

「自己中心主義」は、一般に言う「甘やかし」（相手が勝手気ままな行動をするのを許すこと）から形成されるといわれているが、その背景には次のようなことがあると考えられる。

- 社会全体が経済的・物質的に豊かになってきたことで、子供に辛抱させる機会が少なくなったり、家庭での手伝いなどの役割が減ってきたりしていること
- 子供が塾や習い事などで時間に追われ、送迎など保護者が手厚くサポートしなければならなくなってきたことに加え、自分で目標をもったり計画を立てて実行したりする機会が少なくなっていること
- スマートフォンやパソコンなどの情報端末の普及に伴い、インターネットを介した子供の行動が多くなり、保護者の目が届きにくくなったことによって注意を与えたり、制限をかけたりすることが難しくなってきたこと
- 子供がスマートフォンやゲーム機などに依存する傾向にあり、欲求や感情などをコントロールすることができなくなっていること
- 地域の行事や交流機会が少なくなったことによって、地域（近所）の人とのコミュニケーションが不足し、対人スキル（他者との関係を築く力）を身に付ける機会が減っていることに加え、地域の一員であるという意識が低下し、自分の役目や役割を果たす機会がなくなっていること

### (3) 「何事にも熱心に取り組む姿勢」や「支援的風土」の実現に向けて

「何事にも熱心に取り組む姿勢」や「支援的風土」を実現し、教育課題の解決や教育目標の達成、理念の具現化に資するため、子供の「責任」の意識を育てるとともに、課題解決や目標達成に向けて、人との関りをもたせながら主体的に取り組む姿勢を育てていく。

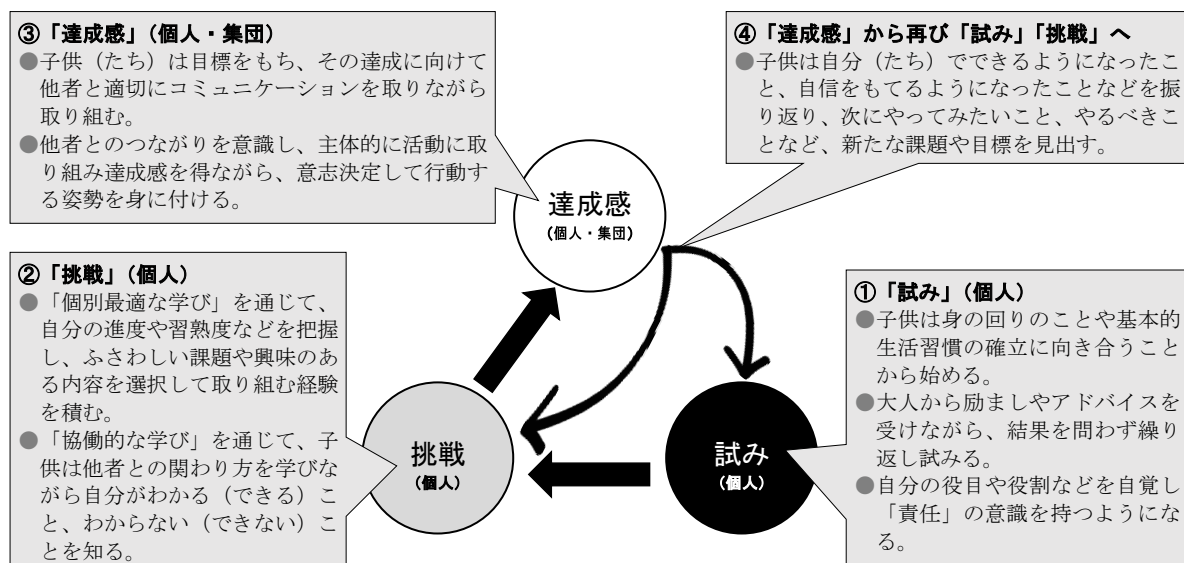
まず、保護者と連携し、家庭や学校における準備や後片付け、身の回りの整理整頓、基本的な生活習慣など、子供が生活全般について自ら改善・向上させようとする「責任」の意識を育てる。このことは子供が学びを積み重ね成長するための土台となるものである。

また、授業等で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めることによって、子供が他者との関わり方を学びながら主体的に取り組む経験を積み重ね、意志決定することへの自信をもてるようにする。

そして、学校行事や地域主体の行事などを通じて、他者とのつながりを意識し主体的に行動する経験をさせながら「わかる」「できる」という「達成感」を味わわせることによって、意志決定して行動する姿勢を身に付けさせていく。

これら一連の指導や支援を「試み」「挑戦」「達成感」の3つの段階に整理し、以下のような対応を行う。

#### (ア) 子供の姿



学校や家庭での生活や学習を通じて、「試み」「挑戦」「達成感」の各段階において子供は自分の役目や役割、課題、目標などに向き合い、他者との関わりをもちながら責任の意識や意志決定して行動する姿勢を身に付けていく。

行動の基礎となるのは「試み」の段階であり、子供（個人）は家庭や学校での生活の中で、準備や後片付け、身の回りの整理整頓、基本的な生活習慣の確立などに取り組みながら「責任」の意識を身に付ける。

「挑戦」では、子供が主体的に課題に取り組む経験を積み重ねることによって、意志決定することへの自信をもてるようにする。学習では子供（個人）が自分の進捗や習熟度を把握し、ふさわしい課題や興味のある内容を選択して取り組む（個別最適な学び）。また「反応する」「最後まで話を聞き受け止める」など、他者と関わるためのスキルを学びながら、相手との考えの違いを意識して話し合ったり、自分とは違う意見を生かして考えをまとめたりする（協働的な学び）。

「達成感」では、学校行事や学活などで子供（個人・集団）が自身の願いや実力などを踏まえて目標を設定し、仲間と協力したり大人の支援を得たりするなど適切にコミュニケーションをとりながら、その達成に向けて主体的に取り組む。また、個人や集団での振り返り活動を通じて行動や結果を内省し、「できた」「自信がもてた」などの「達成感」を得ながら意志決定して行動する姿勢を身に付けていく。

#### （イ）大人による指導や支援

家庭と連携して子供（個人）の「責任」の意識を育てることを土台とし、人との関わりの中で主体的に学習や行事などに取り組める機会を提供して、やりがいを感じさせ自信をもたせながら、意思決定して行動する姿勢を育てていく。「試み」「挑戦」「達成感」の段階において、以下のような指導や支援を行い、必要に応じて学校・家庭・地域・関係機関等が連携協力することによって、子供の学びの機会の充実が図られるようにする。

「試み」では、保護者と連携して家庭や学校における準備や後片付け、身の回りの整理整頓、基本的な生活習慣など、子供（個人）が生活全般について自ら改善・向上させようとする「責任」の意識を育てる。結果を問わず、「一歩踏み出し行動する」ことができるよう励ましやアドバイスを与えるようにする。また、周囲に貢献しようとして「状況に対して『反応する』」行動があった場合もその活躍を称え、さらなる行動を促すようにする。

「挑戦」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を進めるにあたっては、タブレット端末を効果的に活用し、子供（個人）に自分の進捗や習熟度を把握させ、ふさわしい課題や興味のある内容を選択させながら取り組ませる。また「反応する」「最後まで話を聞き受け止める」など、他者と関わる上で必要なスキルを習得させながら、相手との考えの違いを意識して話し合わせたり、自分とは違う意見を生かして考えをまとめさせたりして深い学びができるようにする。

「達成感」では、子供（個人・集団）が自身の願いや実力などを踏まえ、活動や取組に関する目標を適切に設定できるようにするとともに、目標達成に向けて他者と良好な関係を築きながら主体的に取り組めるようにする。個人や集団での振り返り活動を通じて行動や結果の内省を促し、「できた」「自信がもてた」などの「達成感」を味わわせながら意志決

定して行動する姿勢を身に付けさせていく。

### ③「達成感」(個人・集団)

自身の目標達成に向けて、他者と良好な関係を築きながら意思決定して行動する姿勢を育てる指導や支援の充実を図る。

- ▶学校行事や学活などで自分(たち)が自身の願いや実力を踏まえ、適切な方法を選んで目標を設定し、必要な協力や支援を得ながら目標達成に向けて取り組めるよう指導や支援を行うとともに、評価指標の明確化や振り返り活動の充実を図る。
- ▶「反応する」「最後まで話を聞き受け止める」など話し合いを円滑にするための方法を指導する。
- ▶目標達成のために他者と良好な関係を築きながら主体的に取り組めるよう指導や支援を行う。
- ▶振り返り活動を通じて行動や結果の内省を促し、達成感を味わわせるよう配慮する。
- ▶PTAや地域が主体となった行事等への参加を奨励する。

#### ◀目標と指標▶

「目標」は物事を達成したり、ある場所まで辿り着いたりするための目印。「指標」は状況を判断したり、物事を評価したりする際に基準となる目印。「目標」が「ゴールとなるもの」に対して「指標」は「判断基準となるもの」。

### ②「挑戦」(個人)

課題解決や目標達成に向けた取組など、他者との関係性の中で子供の主体性を育てる機会の充実を図る。

- ▶学習でタブレット端末を活用するなどして、子供に自分の進度や習熟度を把握させ、ふさわしい課題や興味のある内容を選択しながら取り組めるよう指導する。(個別最適な学び)
- ▶「反応する」「最後まで話を聞き受け止める」ことを意識させ、相手との考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして考えをまとめることができるよう指導する。(協働的な学び)
- ▶学活や道徳などで行動のねらいや目標を意識させ、子供が「一歩踏み出し行動する」ために必要な指導や支援を行う。
- ▶自分の健康や体力に関心をもたせ、すすんで体育的行事や遊びに参加するよう指導や支援を行う。

#### ◀「個別最適な学び」とは▶

「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されている。

「指導の個別化」は子一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと。「学習の個性化」は教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することによって、子供自身が学習を最適となるよう調整すること。

達成感

挑戦

試み

### ①「試み」(個人)

学校や家庭での日常生活で自分がやらなければならないことや、向き合わなければならない問題や課題に対して(結果を問わず「一歩踏み出し行動する」という)「責任」の意識を育てる指導や支援の充実を図る。

- ▶規則正しい生活習慣の確立や定着を促すため、家庭に対して必要な情報提供やアドバイスに努める。
- ▶学校生活全体を通して、自分の役目や役割に気が付かせ、行動することができるよう指導する。
- ▶学校生活全体において、「状況に対して『反応する』」ことができるよう支援する。

#### ◀「責任」とは▶

子供が自分で向き合わなければならない問題や課題の解決や克服、身に付けなければならないスキルなどの習得に向けて、一つ一つ取り組むこと。(自分の失敗や間違いを他人や周りのせいにならない。)

「状況に対して『反応する』」こと。自分の役目や役割はもとより、誰かがやらなければならないことや、やった方が良いことにも積極的に関わっていく態度のこと。